

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月31日作成)

| | | |
|---------------------------|--|------------------------------|
| 小委員会名 | コンクリートブロック塀耐久性向上研究小委員会 | 主査名：川上 勝弥 就任年月：2023年4月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 材料施工委員会 (組積工事運営委員会) | 委員長名：野口 貴文 主査名：川上 勝弥 |
| 設置期間 | 2023年4月 ～ 2027年3月 | |
| 設置目的 各年度活動計画 (箇条書き) | <p>コンクリートブロック塀は、RC造相当の耐久性を有すべき構造体ともいえるが、その多くに20年程度で鉄筋の腐食などの劣化が認められる。その原因のひとつに、施工方法に関する設計者、施工者および管理者の理解の不足があり、組積工事運営委員会では2017年～2020年度に設置した「コンクリートブロック新工法研究小委員会」で、ブロック塀施工マニュアルの改訂、JASS7改定に向けた情報を蓄積した。本小委員会では、構工法のさらなる改善によりブロック塀の耐久性を高めるべく、目地・充填モルタルの既調合化に向けた実験的検討や、非破壊検査による既存ブロック塀の検査方法を検討する。</p> <p>初年度：(2023年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック塀の耐久性に関する現状把握。 ・コンクリートブロック塀の劣化と地震被害について考察。 ・既調合目地モルタルの所用性能の検討。 <p>2年度：(2024年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック塀の劣化診断法に関する実験を実施。 ・既調合目地モルタルの諸性状について実験を実施。 <p>3年度：(2025年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック塀の劣化診断方法の適応性を検討。 ・既調合目地モルタルの実験結果をもとに所用性能を考察。 <p>4年度：(2026年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック塀の劣化診断方法の提案。 ・既調合目地モルタルの実験結果をもとに所用性能を提案。 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | <p>委員公募の有無：</p> <p>主査：川上勝弥(小山工業高等専門学校) 幹事：山崎尚志(職業能力開発総合大学校) 委員：井上斉(ワシロック工業)、笠井健太(マツオコーポレーション)、関根高明(関根ブロック)、高橋和雄(太陽エコブロック)、本田隆(マチダコーポレーション)、三田紀行(三重大学)</p> | |
| 設置WG (WG名:目的) | | |
| 2023年度予算 | 150,000円 | ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：無 |

| 項目 | 自己評価 |
|---|--------------|
| 委員会開催数 | 4回(年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画 | |
| 大会研究集会 | |

| | |
|--------------------------------|--|
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 年度当初はコロナのため開催が難しかったが、概ね順調に進んでいる。 2. 2023年度建築学会大会（近畿）において研究成果を発表した。 |
| 委員会活動の問題点 ・課題 | 建築学会保有の Zoom URL の本数から、委員会日程の調整が制限された。 |